



2021年10月号(No.9)
 公益社団法人 日本山岳会
 The Japanese Alpine Club
 東京都千代田区四番町5-4
<https://www.jac1.or.jp>
 編集担当: 新井 梓

3カ月に一度発行する「山」YOUTH版では、YOUTH CLUB 世代の会員のご活躍、東京や各支部のYOUTH CLUBの取組みなどをご紹介します。話題のご提供や感想など、ご意見何でもお待ちしております！

REPORT

国立登山研修所「登山リーダー夏山研修会」で学んだこと

ユースクラブ・青年部の研修生として研鑽中の中村淳史君(24)が、今夏、国立登山研修所の「登山リーダー夏山研修会」に参加した。全国から集まったリーダー候補生たちと過ごした、6日間に及ぶ訓練の様子をレポートしてもらった。

8月18日から23日の6日間、国立登山研修所の「令和3年度 登山リーダー夏山研修会」に本部青年部の研修生(リーダー候補生)として、松原尚之^{まさゆき}理事(ユースクラブ委員長、青年部担当理事)からの推薦をいただいて参加した。直前の抗原検査によるスクリーニングや研修所での細かなルール、また入山中もソロテントでの幕営など厳重な新型コロナ対策の下に今年度の研修再開が実現した。そして、大学生を主とした全国各地の山岳団体から総勢18名ものリーダー候補者が集った。技術の学習・実践の機会に恵まれただけでなく、私に数々の刺激と意識改革をもたらした実り多い研修会だった。今回、多くのご支援あって参加した経緯から『YOUTH CLUB 山』のこの場をお借りして報告をさせていただきたい。

初日は、開会式にて顔合わせと藤原洋所長からのご挨拶があった。コロナの関係もあり全員参加は叶わず、研修生・講師ともに当初通りの参加とはならなかった。研修所内では座学の講義も行った。2日間で「登山のPDCA」、「新型コロナに対応した登山」、「確保理論」のそれぞれ3科目を受講し、登山のメソッドを理論的に学ぶことができた。座学後は各班に分かれ、実技担当の高津道男講師・佐藤勇介講師と班の研修生6名で顔合わせをし、装備確認に移った。班の研修テーマは「時間厳守と即断即決」だったが、早速私を含め数名が集合に遅れてしまっただけで講師から注意を受けた。このように、研修会では6日間通して時間について厳しく指導されたし、班員も所定の時間を1分



人工岩場でカムデバイスによるプロテクション取り、ピレステーション構築の練習

1秒でも過ぎないようにストイックに行動した。顔合わせにて班員の参加動機を聞いた。皆一様に活動制限で十分に訓練を積めていない中でも登山にハングリー精神を持ち、リーダーを目指すべく強いモチベーションで研修会に来ていると感じた。

2日目の朝食後は早朝から座学を受講した。野外実習ではまず、私の班はテント設営訓練を行った。5分以内の設営と3分以内の撤収ができるようになるまで、ひたすら繰り返した。その次は支点構築とロープワークの訓練。昼食を挟んで、人工岩場でカムデバイスによるプロテクション構築を実践する。初めてカムを使った。その後、マルチピッチと懸垂下降の訓練を行い、その日の実習は終了した。就寝前のミーティングでは剣岳・本峰南壁A2が目標ルートとして設定され、計画書作成のために班員同士盛んにディスカッションを行った。

3日目はついに立山・室堂入山日。出発前に山

本篤主任講師がこう檄^{げき}を飛ばす、「登山靴の紐をちゃんと結べ！　そういうところからリスクは始まっているんだぞ！」。緊張が高まる。登攀装備だけでなくソロテントまで詰め込んだ80Lのガッシュブルムが重い。剣御前小舎から剣沢に着くまでの短い時間だったが、この日はCLを担当した。リーダーの経験が無いため全く自信が持てなかったが、すべきと思った指示や注意を大きい声で行った。簡潔明瞭な意思の伝達…これは岩場でも登山道においても繰り返し言われたことだった。例えば「ロープを強く引く＝登れ」など、声が通らない状況でも意思の齟齬が無い様に高津講師は登攀中の合図を決めているという。剣沢にある夏山前進基地に着いたものの、天候悪化のためその後の研修は行えなかった。しかし、強風が吹く状況でもタイムを計ったテント設営は欠かさなかった。

4日目は平蔵谷^{へいそうたに}から本峰南壁A2を目指す。しかし、行く手にクレバスが立ちはだかった。とても跨いで越えられないそれに、研修生は突破法を見出せなかった。講師の指示によって越えられたが、通過に1時間以上を要してしまった。おまけに取り付きで雨が降り始めてしまい、事前に決めていた判断基準に従い登攀を断念せざるを得なかった。別山尾根から剣岳頂上に行き、そのまま同尾根を下降することになった。すぐに晴れたこともあって班内は残念ムードに包まれたが、計画を以てチームを統制するという「登山のPDCA」での学びを活かすことができた。また、この日から、タープを利用して3密にならないように班での会食を行った。講師のお二方の大学ワンダーフォーゲル



平蔵谷の雪渓を上がる（2番目が筆者）

部時代の話や、シャモニーでのクライミングや日本の知られざる難ルートのエピソードに心を躍らせ、皆真剣に聞き入った。親睦も深まった時間だったように思う。

5日目は別山の岩場で研修を行った。ハーケンの打ち方やナチュラルプロテクションによる支点構築を実践した。条件の良い位置が争奪戦になったこともあって、こんなにも理想通りにはプロテクションが取れないものかと感じた。その後はクライミングを行った。私もリードを行い、支点構築や引き上げ、懸垂下降のセットを経験することができた。テント場への下山では実際の事故対応さながらの緊張感で搬送訓練を行った。基礎体力や歩行技術があって初めて救助が成り立つと痛感した。

6日目は室堂への下山の最中、テント設営とロープ結束の最終確認を行った。特にロープの結束は班で一番早くできるようになった。最初は最も遅かったのも、些細なことかもしれないがより一層成長を実感することができた。下山後の閉会式では、山本篤主任講師から「サッカーなど他のスポーツクラブでは毎日のように練習しているのに、登山クラブだけが毎週末や週2～3回程度の練習で妥協していいはずがない。」との叱咤があった。5000m走で20分台を切る研修生が一人しかおらず、体力水準の低さを嘆かれてのことだった。技術や体力を一層高める自主練習の必要性を今回まさに痛感した。更に、リーダーを目指すならば自己完結することなくクラブ内でトレーニングの習慣を作っていかなければならないと思う。最後の反省会にて、高津講師からは基礎を徹底すること、佐藤講師からは安全に登山を続けてほしいことを言い渡され、各自解散となった。

以上が6日間の研修内容や学び、私の所感となる。研修会を通して、素早く自然に行えて初めて後輩に技術指導が可能となることを何度も言われてきた。今、この教えが登山に臨む上での私のテーマとなっていると感じる。詳細な技術については、伝達講習を以て後の山岳会への共有とさせていただきます。

（青年部研修生 中村淳史）

東さんの乱学塾

連載 9 「点の記」で見える山

NHK「青天を衝け」では、今まさに明治維新の矢継ぎ早の改革を推進する澁澤栄一の姿が描かれています。このころ行政官から府県・諸侯に対し管轄地図を調製させる旨の沙汰が下っています。以後、明治17年(1884)地図の作成は参謀本部測量局(のち陸地測量部と改称)に統合され大正14年(1925)に全国の5万分の1地形図が完成しています。私たちはその後の改測・改定を経た地図を活用して登山をしています。何気なく使っている地図の白い裏には測量に携わった人々の並みならぬ苦勞が隠されていると思います。

この苦勞を描いた「劔岳 点の記」は映画化もされて広く知られたところですが、実は劔岳は明治40年(1907)に登頂はされましたが、険峻(ひげう)標石(せき)を設置出来ませんでした。そこで、頂上(てんびょう)に觚(こ)標(ひょう)だけを設置して四等三角点として測量されました。点の記は三等三角点以上だけで作成されるため、このときは点の記は完成しなかったのです。点の記として完成されたのは平成16年(2004)でした。今回の乱学塾は、山に行けばよく目にする三角点とその戸籍である点の記(三角点名、所在地、土地の所有者、測量年月日、三角点までの道順、交通、案内図などで構成)についてです。

三角点は三角測量(三角形の性質を利用した測量)を実施するときに経度・緯度・標高の基準(水準点も標高の基準には必要)とする点のことです。よく山頂にあるので、山頂の標識と間違えている方もいますが、一番高いところに必ずしも埋設されていません。劔岳も標高は2999mですが、三角点は2997.1mです。山の頂上に設置されているのは測量の性格上、見通しが良いところが求められるからで、三角点と三角点の間に高い山があると、行くのに不便を承知で奥深い山に設置しています。

山頂にある三角点はだいたい20cm程の標石頭部が見えていることが多いですが、60cm程は土中

に埋められています。この石柱の下部には盤石(ばんじやく)が置かれて破損などに備えています。山中にある三等三角点でも石柱・盤石併せて95kgもあり、測量時には3m以上もある觚標(こひょう)も立てるため、相当量の物資を山頂まで運び上げなければなりません。その苦勞たるや想像に余りあります。

ここで、柴崎芳太郎(しばざきよし たろう)の作成した点の記をもとに、その魅力に迫ってみましょう。点の記にはそれぞれ番号があります。番号の最初の一文字に漢字が振られていますが、この漢字のことを冠字(かんじ)と言います。冠字は選点者それぞれが固有の文字を持ち柴崎芳太郎の冠字は「景」で、彼が作成した点の記には景第〇〇號(きょう とうとうごう)と番号が振られています。登山者として興味深いのは順路で、「藤橋まで進み其橋を渡らず真川の上流(まがわ) (略)」の項を見ると既に当時は藤橋がかかり、今は常願寺川(じょうがんじがわ)と呼ぶ部分も真川と呼んでいた様子がわかります。

これが一等・二等三角点の点の記では、宿泊先・手配を依頼する人・作業時の宿泊・食料の入手先・飲料水の入手方法・積雪時期など詳細に記載されているので、当時の登山事情や頂上までの経路がわかります。柴崎芳太郎と並び困難な測量を成し遂げた館潔彦(たてきよひこ)の穂高岳の点の記を見れば、竹川谷を登ったとあります。今の岳沢と推定されますが、当時は重太郎新道もなく困難を極めたことと思います。

今皆さんは、地図・ガイドブックなど様々な資料をもとに登山を計画されると思います。是非、点の記も紐解いていただき、地理軸と歴史軸で厚みのある登山を楽しんでいただければ幸いです。

(東秀訓)

《参考》

完成した5万分の一の地図はスタンフォード大学の地図ライブラリーから閲覧可能。



国土地理院 基準点成果等閲覧サービス



*点の記を見たい場合は登録が必要で、最新から過去を見たいときは基準点コードの次に続く年月日の数字を削除して再検索すると閲覧可能。



前っちの山と酒

佐渡の最高峰といえは金北山だ。元々北山(ほくさん、ほんさん)と呼ばれていたが、金山発見以降、金北山と呼ばれるようになった。北山の名が示す通り、佐渡は中央にある国中平野で北と南にわかれており、それぞれ大佐渡、小佐渡と呼ぶ。これらは別々に隆起した島で、それぞれの島から流れ出した土砂でくっついたのが現在の佐渡だ。故に、島の中でも場所によって水の硬度が異なるのが面白い。金北山からのぞむ国中平野は大変広く、佐渡の雄大さを目の当たりにする。

佐渡は稲作が盛んなこともあり、島内には数多くの酒蔵がある。中でも地層に貝殻層が堆積する地域にある逸見酒造が用いるのは中硬水だ。佐渡の中央を流れる国府川の伏流水を井戸からくみ上げている。貝殻層といえは灘の宮水が有名だが、硬度もこの宮水に近いそうだ。酒米は地元産五百万石や越淡麗(いずれも新潟が生んだ酒米)を中心に酒を

仕込んでいる。佐渡で一番小さな蔵ながら、山廃仕込み(天然の乳酸菌を増殖し造る手法で、大変気を遣う)もされており、今後は熟成酒造りにも挑もうとされている。真稜、至の銘柄を出しており、これらを佐渡の幸とピタリとあわせてくれたのが蔵から車で10分ほどに位置する「四季菜割烹伝」だ。

せっかく離島に来たのだから、下山後もう一泊。山から眺めた佐渡の土地を下山後は文字通り存分に“味わって”いただきたい。(青年部・前川晋也)



至「至」「真稜」新潟県佐渡市、逸見酒造

ユースクラブ委員会からのイベント案内

◆オンライン講演会「語りの場～やま・ヒト・文化をつなぐ～」第4回

第4回の語り手は山本宗彦さん(本会副会長)。明治大学山岳部を卒業、コーチ・監督として36年間にわたり後輩の指導に携わるとともに、本会学生部の1982年ボゴダ遠征を皮切りに、1984年カンチェンジュンガ縦走登山隊、1988年チョモランマ/サガルマタ友好登山隊、1995年マカルー登山隊など数多くの海外遠征に参加して来られました。そして、還暦を過ぎてなお雪深き冬山に挑戦し続けておられます。そんな語り手に、山を始めたきっかけから今日に至るまでを語っていただきます。

【タイトル】「果てなき探究の山～明治大学山岳部、ヒマラヤ、そして冬剣」その1(全2回)

【日時】2021年10月27日(水) 19:30～21:30

【語り手】山本宗彦さん(本会副会長、明治大学山岳部OB・前監督、現役中学校教員)

【実施方法】Webex Meetings(オンライン会議システム・契約不要) ※途中入室・退室可能です。

【申込】下記URLよりお申し込みください(締切:10月25日)。

<https://forms.gle/oMjvWgn6qyg4b2Zz7>



◆初心者歓迎・ボルダリング体験会

ボルダリング体験会を開催します。クライミングに関心があるけど、きっかけがないという方、もっと上手な身体の動かし方を学びたいという方、ふるってお申込みください。

【日時】2021年10月30日(土) 9:00～12:00

【講師】松原尚之さん(本会理事、ユースクラブ委員長、山岳ガイド、法政大学山岳部OB・前監督)

【場所】クライミングジムZEN 百合ヶ丘店

【募集人数】20名

【参加費】3,000円予定(会場利用費として)

【申込】下記URLより詳細をご確認の上、お申し込みください。

<https://forms.gle/P6j132nvTmvJmcF2A>

